

冬のうた

上川北部医師会
名寄市立総合病院

おおいし ゆりこ
大石由利子

我が家は2016年10月、長男が1歳になる直前に名寄市にやってきました。名寄は「雪質日本一」を標榜する町。冬を楽しまない手はありません。とはいつつ、子供が小さいことや最低気温がマイナス20度を下回る冬の寒さを言い訳に、もっぱら近所の公園でそり遊びやかまくら作りなどして雪質を感じることもなく冬をやり過ごしていました。

そうこうするうちにあっという間に6年が過ぎ、2022年冬シーズンがやってきました。今年は今までとは少し事情が違います。長男は小学生になり学校でスキー授業が始まります。名寄で生まれた二男も5歳になりスキーだってできそうです。子供のために今年は気合を入れなくてははいけません。雪が降る前に家族4人分のスキーを一気に購入しました。スキーを買ったのはかれこれ20年ぶり、いや30年近く経っているかもしれません。私を知るスキー場は“カービング以前”のスキーをはいた人々で溢れ、スピーカーからは松任谷由実の「恋人がサンタクロース」や広瀬香美の「ロマンスの神様」、globeの「DEPARTURES」が繰り返し流れていた時代(古過ぎて分からない方すみません。ググってみてください)。しかし今やスキー売り場にはカービングスキーしかありません。いや、2016年時点でそうだったはずですが時代に取り残されていたことを改めて実感したのでした。

果たして、無事自宅から車で15分程度の距離にある地元ピヤシリスキー場にてスキーデビューを果たした我が家ですが、ここで名寄の凄さに驚愕します。なんと、小学生と幼児のリフト券は事前申し込みでシーズン券が無料です。ボーゲンも怪しいのにスキーウエアのチケットホルダーにはシーズン券が輝く北国キッズの誕生です。スキースクールには申し込みが間に合わず通えませんでした。シーズンが終わる頃には一人でリフトにも乗れるし、なんとかブルークボーゲンで斜面を滑り降りるようになりました。環境ってすごいですね。

さらに今年は新たな冬の楽しみ、雪像作りにもチャレンジしました。名寄では『なよろ雪質日本一フェスティバル』という雪まつりが開催されるのですが、それに合わせて市民ミニ雪像コンテストが行われます。高さ1m以上の雪像を作り、コロナ感染の影響を考慮し写真で応募するスタイルで、後輩にそそのかされ人生で初めて雪像なるものを作ることになりました。まず100均で雪を削る小さいコテの

ような物やスコップなどを購入し準備開始。作成日は天気は良いけどマイナス15度にもなるような寒い日です。寒さがすぎるため雪がサラサラで固まらず出だしから絶望感が押し寄せます。雪像用に雪のブロックを新たに作るのには断念し、除雪でできた雪山を削りだす方針に変更です。2日かけて眉間からチェーンソーが生えた人気アニメのキャラクターを無事作りあげました。名寄に来て雪像スキルまで身につけてしまいました。おまけで特別賞をいただき、雪まつりで使える金券で皆の空腹を満たしました。

あとは、憧れのシマエナガに会いに行きたいとか、せっかく名寄にいるのだから極寒の早朝にサンピラーを見てみたいとか、カーリングもいいなとか、まだまだ冬を楽しめそうな気配です。ちなみに私は札幌出身なのですが、かつて憧れていたダイヤモンドダスト(寒い日に空気中の水蒸気が凍り朝日を浴びてダイヤモンドのように世界がキラキラ輝く自然現象)は、いつでも見られるため感動も薄くなってしまいました。慣れってすごいですね。

小さい子供を育てるには、職住近接、コンパクトシティの名寄は、冬さえ克服できればとても住みやすく楽しい町なのです。Kiroroの「冬のうた」を聴きながら、これを書いているのは3月末。今年の名寄の長い冬ももうすぐ終わりそうです。

